



立法論綱

三

71
6314
3



門 71
8314
卷 3

立法論

卷三

第十篇

政治

政治上ノ幸福及ヒ凶害ノ剖析○此幸福

凶害ノ社會ニ波及スルハ如何ノ状ナル

乎ヲ論ス

政治ハ猶ホ醫術ノ如シ其務メタル唯凶害ヲ撰

擇スルニ盡キタリ夫レ各法皆凶害ニアラザル

無シ何ントナレハ各法皆自由ヲ碍グル者ナレ

バナリ反覆シテ之ヲ言シ曰ク政治ハ唯凶害ヲ

撰擇スルニ盡キタリ而シテ此撰擇ヲ為スニ方

立法論

卷三

一

リテ立法者ハ當ニ何ヲ以テ其目的ト為スヘキ
 乎必ズ左ノ二事ヲ確知セサル可カラズ
 第一 何如ノ場合ニ於テモ立法者ノ防遏セ
 ント冀フ行事ハ真個ノ凶害タルベシ
 第二 此等ノ凶害ハ之ヲ防遏スル為メニ使
 用スル所ノ凶害ヨリ大ナル者タルベシ
 此ニ於テ立法者ハ其著目スベキ二物ヲ得タリ
 曰ク罪科ノ凶害曰ク法律ノ凶害是レ猶疾疢ノ
 凶害ト藥石ノ凶害トノ如シ
 如何ナル凶害モ單ニ至ル者寡シ凶害ノ部分ハ

恰モ一ノ中心ヨリ來ル如ク四方へ散敷波及セ
 ザシテ專ラ一個人ノ身上ノミニ墜落スルト幾
 ンド稀ナリ其散敷波及スルヤ殊異ノ形狀ヲ現
 ス世間甲ノ凶害ヨリ乙ノ凶害ヲ生スルアリ
 ニ之ノミナラス幸福ヨリ生スルノ凶害アリ凶
 害ヨリ生スルノ幸福アリ此等諸類ノ凶害ヲ瞭
 知シテ之ヲ區別スルハ重要ノ事ナリトス何シ
 トナレバ立法ノ要實ニ此ニ存スルガ故ナリ然
 ルニ幸トスル所ハ此等凶害ノ變狀其數甚ク鮮
 少ニシテ其差異最モ著明ナル形蹟ヲ現スルニ

アリ、乃チ三種ノ大別ト二種ノ小別トヲ以テ至
難ノ問題ヲ解スルニ足ルベシ

第一類ノ凶害

第二類ノ凶害

第三類ノ凶害

原頭ノ凶害 隨生ノ凶害

直接ノ凶害 間接ノ凶害

廣被ノ凶害 分歧ノ凶害

永久ノ凶害 瞬時ノ凶害

以上皆新異ノ言語ニ係リ其語タル唯凶害ノ

殊類ヲ名狀スル在方リ之ヲ用ルヲ要スル者ナ
リ

惡行ヨリ生スルノ凶害ヲ分チテ二種ノ大區別
ヲ為スヲ得ベシ

第一 某ト指定ス可キ人ノ身上ニ直接ニ
墜落シ来ル所ノ凶害ニシテ今之ヲ稱シテ第
一類ノ凶害ト云フ

第二 第一類ノ凶害ニ起源シ而シテ全社會
或ハ指名ス可ラサル無數ノ人ノ身上ニ波及
スル者ニシテ今之ヲ稱シテ第二類ノ凶害ト

云フ

第一類ノ凶害之ヲ分チテ二種ト為スヲ得可シ

(第一) 原頭ノ凶害即チ特ニ損害セラレタル

人(第一)ノ被害者ニ係ル者ヲ云フ例ハ毆打

セラレ若クハ掠奪セラレタル者ノ如シ

(第二) 隨生ノ凶害即チ原頭ノ凶害ノ連續ト

シテ第一被害者トノ或ル關係ニヨリ(其身上

ノ利害ノ關係ト唯愛情ノ關係トヲ論セス)或

ル指定ス可キ人ノ身上ニ墜落スル者ヲ云フ

第二類ノ凶害モ亦之ヲ分チテ二種ト為スヲ得

可シ(第一) 駭愕(第二) 危險

(第一) 駭愕(第二) 危險

駭愕ハ陽狀ノ痛苦ナリ即チ惶懼ノ痛苦ナリ凶

害ノ既ニ他人ニ墜落セルヲ見テ人々同一ノ凶

害ヲ己レニ受ルヲ惶懼スルヲ云フ危險ハ原頭

ノ凶害ヨリシテ其同類ナル他ノ凶害ヲ生ズル

ヲ疑慮スルヲ云フ

此二種ノ凶害ハ相接シテ離レズト雖氏亦判然

兩存セシムルヲ得マシ危險無キ處ニシテ駭愕

兩存セシムルヲ得マシ危險無キ處ニシテ駭愕

有ルコトアリ、駭愕無キ處ニシテ危険有ルコトアリ、
 例ヘバ全ク想像ノ謀叛ニ惶悸スルコトアルベク
 又將ニ暴發セントスル謀叛ノ中ニ在テ安全ナ
 ルコトアルベシ、然リト雖モ同一原因ノ自然ノ効
 果トシテ駭愕危険並ビ至ルヲ以テ常トス、既發
 ノ凶害ハ人ヲシテ同種類ナル其他ノ凶害蓋
 シ繼テ到ルコト有ラント豫メ之ヲ疑惧セシム、既
 發ノ凶害ハ危険ヲ生シ、危険ハ駭愕ヲ生ス、惡行
 ハ他ヲシテ之レニ倣ハシムルノ例トナルガ故
 ニ危険ナル者ニシテ實ニ他ノ惡行ヲ誘導ス、其

故ニケリ、惡事ヲ行フノ思想ヲ揮擯スルニ因テ
 第一ニ惡事ヲ行フノ思想ヲ揮擯スルニ因テ
 之ヲ為ス、
 第二ニ誘惑ノ勢力ヲ宏大ニスルニ因テ之ヲ
 為ス、
 人他人ノ盜行ヲ遂ルヲ聞知スルニ方リ、其心中
 縈思ノ始終ニ就テ試ミニ之ヲ論センニ、蓋シ此
 人原來盜行ヲ以テ生活ノ手段トスルヲ知ラス、
 又嘗テ思考ノ此ニ及ブ無シ、然レニ他人盜行ノ
 例恰モ誘導ノ形狀ヲ為シ、是ニ初メテ同一ノ手

段ニ出デントスルノ念ヲ發セシム、其心中以為
ラク巧ミニ之ヲ行ハ、事蓋シ遂ク可シト、而シ
テ他人ノ行為ヲ傍見スルヲ以テ其實際ノ若ク
難キト、若ク危キトヲ見ズ、他人ノ惡例ハ恰モ絶
域ヲ探見セシメンニ其第一タラントヲ肯シセ
ザルニ前人ノ足跡之ヲ導テ其地ニ到ラシムル
ガ如ク然リ且ツ此ノ如キ惡例ハ人ノ身上ニ此
誘導ノ害ニ減セザル其他ノ効果ヲ現ス、即チ此
例ニ因テ其人ヲ節制スル誘原ノ勢力ヲ軟弱ニ
スルト是ナリ、惡人ノ未タ刑セラレサル間ハ法

律ノ畏憚ス可キ勢力其一部ヲ失ヒ廉耻ノ畏憚
ス可キ勢力モ同シキ度ヲ減却ス、何シトナレハ
其汚穢セラレテ社會ニ立ツ能ハザルノ慘苦ニ
遭ハザル可キ保證ヲ已レニ與フルノ同類ヲ目
撃スレバナリ、夫ノ盜賊横行シテ刑罰ニ罹ラサ
ルノ地ニ於テハ之ヲ以テ幾ンド一般ノ得財手
段ト同視シ曾テ羞汚ノ事ト為サ、ルニ至ルヲ
見テ此言ノ偽ラザルヲ知ルベシ、古昔ノ希臘人
ハ賊盜ヲ行ヒテ敢テ疑ハス、現今ノ亞刺比人ハ
之ヲ以テ光榮ノ事ト為セリ

今請フ此説ヲ實際ニ例セン此ニ人アリ毆打セ
ラレ毀傷セラレ汚辱セラレ盜奪セラレンニ唯
其一身ニ關セル壇内ニ於テ被害ノ總額ハ原頭
ハ凶害ヲ成セリ然ルニ此人朋友アラニニ其愛
憐ノ情ハ其レヲシテ此人ノ痛苦ヲ分受セシム
此人妻アリ兒子アリ父母アラニニ其受ケタル
汚穢ヤ被レル侮辱ノ一部分ハ此等家屬ノ身上
ニ墜落セン此人債主アラニニ此人ノ受ケタル
損害ニヨリ債主ヲシテ返濟延期ノ患ヲ受ケシ
ムルニ至ル凡テ此等ノ諸人ハ被害本人ノ凶害

ヨリ隨生スル凶害ノ若干度ヲ受ルナリ斯ノ若
ク本人及連屬人ハ被ケルニ種ノ凶害相合シ
テ第一類ノ凶害ヲ成ス然ルニ其凶害此ニ止マ
ラザルナリ盜行ノ新聞其諸般ノ事情ト共ニ萬
口喧傳シテ四方ニ布ク是ニ於テカ危險ノ思想
生シテ駭愕之レニ隨ヒテ起ル而テ盜賊ノ性質
ヤ其被ラシメタル毀害ヤ其之ヲ為セル手段ヤ
其人數ニ隨ヒ吾人其地ヨリ隔タリタル遠近ニ
隨ヒ吾人ノ精力及ヒ勇氣ニ隨ヒ又吾人ノ事情
例ヘバ單身旅行スルカ若クハ家屬ト共行スル

カ少許ノ金ヲ有スルカ、若クハ高價ノ器物ヲ他
 人ヨリ依托セラル、如キニ隨テ駭愕ノ多寡其
 度ヲ殊ニス、此危険ト駭愕トハ第二類ノ凶害ヲ
 成ス
 人ノ受タル凶害若シ波及スル性質ヲ有スル
 例ヘバ一人誣告セラレテ名譽ヲ失フニ方リ、此
 誣告一種族ニ關スル事タランニハ是レ單ナル
 私凶害ニアラスシテ、廣被ノ凶害トナル、此凶害
 ハ之ヲ分受スル人弥衆ケレバ弥大ナリ、
 人アリ其私有ニ非スシテ、社若クハ政府ニ屬

スル貨幣ヲ齎持スルニ方リ之ヲ盜奪セラル
 此損失ハ分岐ノ凶害タリ、此場合ノ前者被廣
 害ト異ナル要点ハ此凶害ヲ受ル人弥衆ケレハ
 弥小ナルニ在リ
 人疵傷ヲ受ケ之ガ為ニ此第一害按受傷ノ
 外ニ更ニ附加ノ凶害ヲ被ル下例ヘバ贏利アル
 商業ヲ棄テ婚媾ヲ廢シ占得スベキ好位地ヲ失
 如キハ隨生ノ凶害ナリ又永久ノ凶害トハ一
 タビ之ヲ受レバ到底回復ス可ラザル者ニシテ
 例ヘバ回療ス可ラザル躰害、截斷、斃死等ノ如キ

立去論
 卷三

是レナリ、瞬時ノ凶害トハ全ク消滅不可キ者ニ
 シテ即チ全治ス可キ疵傷若クハ完補ス可キ損
 失ノ如キ是レナリ
 此等ノ區別ハ稍ヤ新奇ニ涉ルト雖、要スルニ
 無用ノ鑿說ニハアラズ夫ノ種々ナル罪科ニ就
 テ實害ノ差異ヲ察知シ、隨テ刑罰ノ權衡ヲ齊均
 スルヲ能クスルハ唯此手段ニ賴テ遂ルヲ得ル
 ナリ
 此剖析ハ無形ノ量衡ト為テ以テ人類ノ行為ヲ
 分割スルノ用ニ充ルコト猶ホ混淆セラル金屬ヲ分

析シテ其實價ヲ混和物ノ精密ナル分量トシテ發
 見スルヤガ如シ
 若シ人ノ惡行若クハ惡行ト認メラレタル者ノ
 中ニ於テ駭愕ヲ起サシムル者アラシニ、此等ノ惡
 行ト駭愕ヲ起ス可キ惡行ト其差異果シテ如何
 ギヤ、夫レ原頭ノ凶害ハ單ニ一人ニ加ハリ隨生
 ノ凶害ハ唯少數ノ人ニ及ブベシ、然ルニ第二類
 ノ凶害ニ至テハ延テ全社會ニ普及ス可キ者ナ
 リ、看ヨ一人ノ狂信者アリテ己レガ認メテ背神
 者トスル人ヲ暴殺セバ、第二類ノ凶害就中其生

本ル所ノ駭愕ハ第一類ノ凶害ニ超ユルヲ數百
 萬倍ナラシトス
 又一種ノ罪科アリ其類頗ル多シ、是レ其凶害ノ
 全部ハ危險ヨリ成立スル者ニシテ、或ル特殊ノ
 人ヲ害セズ一般ニ社會ヲ害スルノ行為ヲ指ス
 公判ニ反對スル罪科ノ一例ヲ看ヨ、判官、告發人、
 證罪人ノ惡行ハ罪人ヲ無罪トシ以テ刑罰ニ遣
 レシム、是レ其凶害タルヤ疑ヲ容レズ、何ゾヤ其
 危險有ルヲ以テナリ、即チ罪者ニシテ刑ヲ免ル
 ンバ其心膽開張シテ又新罪ヲ行フハ念ヲ長ズ

ルハ危險アリ、此犯人ノ例及ビ其幸免ニ因リ他
 人ヲシテ罪惡ヲ行フノ念ヲ生ゼシムルノ危險
 アリ、然リト雖モ世人ハ此危險ノ甚ダ大ナルニ
 拘ハラズ大抵此ヲ輕視ス可ク、又平生考察ニ熟
 シテ之ヲ瞭知スルニ耐ルノ人ト雖モ尚ホ之ガ
 為メニ駭愕ヲ起サシムル可シ、此等ノ人ハ其危險
 ノ實際ニ現ハルベキヲ知ラズシテ畏レザルナ
 リ
 此等ノ區別ハ之ヲ演繹スルニ至テ初メテ其緊
 要ナルヲ知ルヲ得シ、今將ニ此區別ヲ事實ニ適

用スルヲ示サントス
 更ニ一步ヲ進メテ諦察スレバ一ノ罪科ヨリ生
 出シ来ル他ノ凶害ヲ發見スルナリ夫レ駭愕或
 ル点ニ達シ久キヲ經テ止マサル時ハ其効果唯
 人ノ感受能力ヲ害スルニ止マラズ延テ其作用
 能力ニ及ビ盡ク之ヲ灰滅シテ昏睡衰廢ノ形状
 ニ陥ラシム故ニ暴虐搶劫ノ常ニ行ワルマ氣
 カヲ失ヘル工農ハ纒カニ飢餓ヲ免ルマ度ト
 シテ勤勞シ怠惰ヲ以テ不幸中唯一箇餘ス所ノ
 樂易トシテ其意ヲ慰メ工農ノ業ハ冀望ノ念ト

共ニ消滅シ良田荒蕪シテ艸菜獨リ繁茂スルナ
 ラシ此種ノ凶害ヲ第三類ノ凶害トス
 一ノ凶害アリ其人間ノ力ニ生ズルト純バラ造
 化ノ力ニ因テ起ルトニ關セズ上ニ掲クル所ノ
 區別ハ均ク之ヲ適用スベキ者ナリ
 幸ヒナルカナ波及雲布ノ勢力ハ唯凶害ニノミ
 属セズシテ幸福モ亦同一特權ヲ有セリ請フ前
 例ニ同キ區別ニ隨テ之ヲ求メヨ其善行ヨリ生
 ズル所ノ第一類ノ幸福ト此幸福ハ原頭ノ者ト
 隨生ノ者トニ別ツヲ得第二類ノ幸福ト信憑ト

安固ノ或ル度ヲ生ズル者ナリノ存スルヲ見
 トス
 第三類ノ幸福ハ氣力ノ壯烈、心胸ノ爽快、行為ノ
 鋭強ニ因テ顯ハル、而シテ唯報酬ヲ與フルノ誘
 原能ク之ヲ提擄スベシ、人ハ喜悦ノ此感情ニ獎
 勵セラレテ其意外ノ勢力ヲ得ルナリ
 幸福ノ波及ハ之ヲ凶害ノ波及ニ比スレバ頗ル
 遅クシテ感ヲ起シ難ク、幸福種子ノ希望ニ於ケ
 ルハ凶害種子ノ駭愕ニ於ケルガ若キノ生殖結
 果ヲ得ル寡シ、然レモ此差異ハ十分ニ之ヲ補フ

ヲ得ベシ、何シトナレバ幸福ハ常ニ行ハル、所
 ノ自然原因ノ結果ニシテ、凶害ハ唯變ニヨリテ
 生シ間斷アリテ起ル者ナレバナリ
 抑吾人ハ自家ノ幸福ノ為メニ勞スレバ亦全國
 ノ幸福ノ為メニ勞スルニ當レリ、是レ社會ノ構
 造然ラシムル所ナリ、吾人ハ他人ノ享樂ヲ增加
 セズシテ獨リ自家ノ享樂ヲ増加スル能ハズ、又
 二箇ノ國民ハ猶ホ二個ノ私人ノ如ク相互ノ通
 高ニ由リテ富ヲ致シ、而シテ一切ノ貿易ハ相互
 ノ利益ニ因テ立ツヲ得タリ、凶害ハ常ニ

又一ノ幸トスベキアリ、即チ凶害ノ効果ハ常ニ凶害ニアラザルヲ是ナリ、其効果往々反對ノ性質ヲ現ズ故ニ裁判ニ於テ罪科ニ該ルニ刑罰ヲ以テスルハ第一類ノ凶害ヲ生ズト雖、一般ニ之ヲ認メテ凶害トセズ、何ガヤ其第二類ノ幸福ヲ生ズレバナリ、其刑罰ハ駭愕ト危険トヲ生ズ、然レモ何人ニ向テ之ヲ生ズル乎ト云フニ唯行兇者ニ向テ之ヲ生ズルノミ、此黨ハ自ラ被害者タルヲ好ム者ナリ、若シ彼徒ヲシテ法律ヲ遵奉セシメンカ必ス危険駭愕ニ丁ラザルベキナリ

吾人若シ非ハ凶害ヲ以テ他ノ凶害ト抗戦セシムルノ方法ヲ知ラザリセバ、凶害ノ版圖ヲ十分ニモ克服スル能ハザリシヤ必セリ、吾人ハ四方ヨリ來襲シテ我ヲ圍ムノ凶害ニ抗セシカ為メニ凶害ノ中ニ援兵ヲ募ンコトヲ要ス、夫ノ異類ノ痛苦ヲ治スルノ術ニ於テ毒物ヲ巧ニ使用シ以テ其藥石タルヲ實證シタルモ亦之レニ同シ、或ル行事ヲ罪科トスル所以ノ理由ヲ論

凶害ノ剖析ハ既ニ之ヲ終ヘタリ、彼ノ剖析ヲ以テ或ル行事ハ幸福ヲ生スル寡クシテ凶害ヲ生ズル多キヲアルヲ表示シタリ、夫レ立法者カ禁止セシ所ノ行事ハ此ノ如キ性質ノ者ナリ、假令ヒ否ザルモ亦此ノ如キ性質ナリト思惟セラレタル者ナリ、所謂罪科ト云フ者ハ斯ク禁止セル所ノ行事ニシテ此禁止ヲ畏敬セシメンガ為メニ刑罰ノ設ケ必要トナレリ、然リト雖モ或ル行事ハ之ヲ罪科トスルヲ要スル乎、即チ辭ヲ改メ

テ之ヲ言ハ、刑法ヲ以テ其行事ヲ處分スルヲ要スル乎

嗚呼是レ何ノ問ゾヤ、是ノ事ヤ世論ノ共ニ與スル所ニシテ又異議ヲ容レザル者ニアラスヤ、是レ天下ノ認ムル所ニシテ又人心ニ牢ク根ザスノ真説ナリ、然ルニ何ノ故ニカ更ニ之ヲ證スルヲ求ムルヤ
曰ク天下皆之レニ與スルハ真ナリ、然リト雖モ試ミニ問シ其之ニ與スルハ何物ヲ根基ト為シテ然ル乎、請フ之ニ與スルノ各人ニ向テ其理由

ヲ問へ、其感情ト主義トハ人々甚ダ相異ナルヲ見ントス、惟常人ノ間ノミ然ルニアラズ、學士ト雖氏亦同キノミ斯ノ若キ重要ナル論題ニ關シテ承認ノ畫一ナル一基礎ヲ討究スルハ豈時間ヲ徒費スルノ事ナランヤ

世間ニ現存スル所ノ承認ハ唯夫ノ時ト地ト慣習ト時論トニ隨テ變ズル所ノ臆見ヲ基礎トシテ立ツ者ナリ、此ニ人アリ某狀ノ行事ハ罪科ナリト言フヲ聞慣レテ之ヲ然リト思惟セリ、人民ノ指導トナルハ此ノ如キ事ニ過ギズ、唯人民ノ

ミナラズ立法者ノ指導トナル事モ亦然リトス、而シテ慣習ニ因リ無害ノ行事ヲ以テ罪科トナシ或ハ微罪ヲ以テ大罪トナシ、或ハ大罪ヲ以テ微罪トナス、而シテ慣習ハ地ニ隨テ相異ナレリ、然ラバ則チ此慣習ハ或ル定規ヲ以テ節制ス可キ者ニシテ慣習ヲ取テ直チニ定規ト為ス可ラザルヤ明晰ナリ、其レ既ニ然リ請フ歸着ヲ實利ノ主義ニ取レ、是レニ由テ其臆見ノ正ナル者ハ之ヲ確準シ非ナル者ハ之ヲ廢棄スルヲ得ベシ

試ニニ世間普ク知ル所ノ德不徳ト云フ名称ヲ

知ラザル人アリト假想セヨ、此人ハ人間ノ行事ヲ察スルニ方テ其效果ノ善惡ニ關シテ之ヲ判セントス、乃チ二箇ノ計算法ヲ得テ一切ノ快樂ヲ純粹ナル利益ニ算入シ、一切ノ痛苦ヲ損失ニ算入シテ真心ニ諸人ノ利害ヲ測度シ而シテ夫ノ臆見ガ不徳トシテ貶スル人ト有徳トシテ褒スル人トニ對スルモ一見ノ際此等ノ人ヲ同等視シテ先ヅ其臆見ノ當不當ヲ判セント欲ス、其一切ノ行事ノ禁スベキ者ト許スベキ者トノ表記ヲ製スルニ為シ、新奇ノ權衡ヲ用テ其輕重ヲ

秤ラント欲ス、此方法タル其初メニ當リ極ノテ錯雜セルガ如クナレトモ、凶害中第一、第二、第三ノ類ヲ區別セバ之ヲ以テ簡易ニ為スヲ得今一箇人ノ安固ヲ攻撃スルノ行事ヲ考察セシ乎、此行事ヲ為ス者ノ身上ニ生ズル快樂ノ全額言辭ヲ改メテ之ヲ解セバ利益ノ全額ヲ以テ其被害者ニ生ズル凶害ノ全額損失ノ全額ニ比較セバ即チ見シ第一類ノ凶害、第一類ノ幸福ニ超過スルヲ然レモ考察ヲ此ニ止メズ一步ヲ進メテ之ヲ視ルニ此行為ハ危險、駭愕ヲ社會ニ生

立論綱 卷三
ジ當初一箇人ニ對シタル凶害ハ其形狀ヲ變ジテ恐懼トナリ以テ之ヲ四方ニ波及ス此行事ヨリ生ズルノ快樂ハ唯其行為者ニ止マリテ其痛苦ハ千萬人ニ及ビ又全國ニ及ブ其利害相懸絶スル既ニ此ノ如シ而シテ第三類ノ凶害トナルニ至テハ其凶害實ニ測ラレズ此惡行ニシテ禁止セラレズンバ是レガ為メニ永ク一般ノ氣力ヲ喪敗シ更ニ勤勞ヲ事トセズシテ其極々社會ノ構造壞裂スルヲアラシメシ中ニ一類ニ今將ニ吾人至強ノ願欲之ヲ遂レバ最大ノ快樂

ヲ生ズル所ノ者ヲ歷舉シ而シテ女固ク妨害シテ之ヲ遂グル時ハ其願欲ノ満足ハ幸福ヲ生ズルヨリ凶害ヲ生ズル多キヲ見シトス
第一 請フ首トシテ嫉惡ノ憤情ヲ考察セハ名譽ト人身トヲ攻撃スルハ大抵此ノ原因ヨリ來ル甲ナル人アリ其何ノ事故タルニ關セズ乙ナル人ニ對シテ怨心ヲ抱ク時ハ憤情其胸中ヲ攪亂シ乙ヲ罵詈シ或ハ之ヲ壓抑シ或ハ之ヲ毀傷シ其痛苦ヲ目撃シテ暫時ノ間ナリトモ因テ快樂ノ念ヲ生ゼン假令此際ニ在

テモ甲者ノ感スル快樂ハ乙者ノ受ル痛苦ト
相當ルノ同價ヲ有スルト信スルヲ得ル乎若
シ乙者ノ痛苦ノ各分子ヲ取テ之ヲ甲者ノ胸
中ニ布置セシメシハ甲者快樂ノ各分子ハ
之レニ對シテ同等ノ勢力ヲ有スル狀ヲ現ス
可シト思惟シ得ル乎決シテ然ラズ實際ニ於
テ乙者痛苦ノ散布セル僅々ノ分子ハ甲者ノ
錯亂紛擾セル想像ニ對セントスルナリ乙者
ノ痛苦ハ依然トシテ存シ甲者ノ快樂ハ殆ン
ト其全額ヲ失ハシ然リ而シテ此ノ如キ形狀

ノ快樂モ幾時ナラヌ對テ其本質ノ不正ヲ出
現シ來ルベシ夫ノ最下鄙人ハ心性ニ在テモ
全ク消滅ス可ラザルノ理タル仁慈ハ其心裏
ノ懊惱ヲ警起シ各種ノ畏懼乙者ト其緣故ノ
者トヨリ仇敵トセラル、ノ畏懼公論誹譏ノ
畏懼甲者ノ胸中若シ一点宗教ノ念ヲ存セバ
宗教ノ畏懼甲者ノ安固ヲ壞リ其捷心ヲ亂ル
捷心トハ仇敵ヲ伏シ既ニシテ憤情ハ斯盡
テ揚々タルノ心ヲ云フ既ニシテ憤情ハ斯盡
シ満足ノ快樂ハ減殺シテ中心ノ悔痛之レニ
續テ起ル而シテ乙者ヲ顧ミルニ其痛苦ハ尚

ホ依然トシテ奮ニ仍リ永ク存シテ己マザル
ナリ時日ヲ經テ快復スベキ些少ナル毀傷ノ
場合ニ於テモ尚ホ此ノ如シ若シ夫レ治療ス
可ラザル性質ノ者四肢ヲ斷シ容貌ヲ壞リ能
カヲ損セラル、如キニ至テハ其害果シテ如
何ノヤ、請フ凶害ノ強弱長短効果ヲ權リ又其
廣狹ヲ度レ而シテ後ニ何ノ觀察ヲ下スモ其
快樂ノ痛苦ニ及バザルヲ知ントス
是レヨリ第二類ノ効果ニ論及セン、乙者此不
幸ヲ遭ハル新聞ハ畏懼ノ毒ヲ各人ノ心中ニ

浸染セシム、仇敵ヲ有スルノ人若クハ有ス可
キノ人ハ皆疾惡ノ憤情ハ如何ニ感起セント
ノ畏レヲ生ズ、夫ノ多ク爭論ノ事故ヲ有シ多
ク相疾ムノ原因ヲ有スル志操無キ人ノ間ニ
ハ此等ノ人ノ間ニハ瑣屑ナル許多ノ競争ニ
因テ原因ナキ許多ノ敵對アリ、仇敵ノ念ヨリ
凶害ヲ續出シテ盡期ナキナリ
故ニ憤情ヨリ生ズル慘酷ノ諸行事ハ此レ是
ノ心情ハ各人ノ胸中ニ存スル者ニシテ又各
人其害ヲ被ハルベキ者ナリ、駭愕ヲ生ズ犯人

ヲ刑シテ危険ヲ不正ト慘酷トノ邊ニ遞送ス
 ル迄（按）危険ヲ不正ト慘酷トノ邊ニ遞送ス
 リ犯人刑セラルハ及ハ此駭愕已マサルナ
 テハ惡人畏懼スルヲ云ハ此駭愕已マサルナ
 リ此駭愕ハ萬人悉ク受クル者ニシテ又之レ
 ヨリ生ズル一種ノ害アリ是モ亦不論ニ措ク
 可ラサル者トス此ノ如キ諸種ノ害ヲ目撃ス
 ルニ方リ寛厚長者ヲシテ心中愛憐ノ痛苦ヲ
 感起セシムルノ即チ是レナリ
 第二ノ吾人ノ防遏ヲ可ラザル誘原即チ造物
 主ガ頼テ以テ人類ノ不滅ヲ任ジタル願欲（按）

女ノ情慾ヲ指ス此情慾無主ハ生々ノ道絶エ
 人類盡クシ故ニ類ノ不滅ヲ任ジタルモ
 ノトヨリ生ズル行事ヲ觀察スルニ若シ之レ
 カ為メニ人身ノ安固若クハ一家ノ安固ヲ攻
 襲スル時ハ此願欲ヲ遂ル為メニ起ル所ノ幸
 福ハ其生ズル所ノ凶害ト比較シテ相中ル能
 ハサルナリ
 今唯人身ノ安固ヲ必然未來ニ危クス可キノ
 攻襲タル強姦ニ就テ之ヲ論ゼン夫レ此鄙野
 賤劣ナル快樂ノ為メニ此罪科ヲ非認シ（按）強
 遂タル人快樂アルヲ以テ此行若クハ其畏ル
 為テ罪ニアラズルヲ云

可キノ度ヲ減殺セント圖ルハ無用ト云フベシ如何ナル口辨ヲ逞クシテ回護ストモ情慾ヲ濫縦スルノ婦人モ獸行ノ暴戾ニ罹ルヲ好マザル事ハ明白ナリ然リト雖此場合ニ於テ駭愕ノ大ナルヤ又區々其原頭ノ凶害ニ論及スルヲ要セズ其現犯ノ罪科ハ如何ナリトモ姑ク措キテ言ハス而シテ將來ノ罪科ハ即チ恐懼ノ目的トナルベシ此罪科ヲ犯サント欲スル者弥多ケレバ駭愕モ亦弥熾シナリ昔者法律ノ勢力未ダ之ヲ防遏スルニ足ラズ之

ヲ陋行ト確認スルノ風習全ク定マラザルノ時代ニ於テ之レガ為メニ仇敵ノ行事ヲ生ジタルハ史上ニ記載スル所歷々監ミルニ足レリ諸國ノ人民皆之カ為メニ争鬪ヲ事トシ此原因ヨリ起レル憎惡ハ父ヨリ子ニ傳ヘタリホトメル希臘古代有ノ時代ニ於テハ婦人ヲ名ノ詩人閨房ニ幽鎖スルノ風習ハ希臘ニ未ダ無キ所ニシテ其後之レアルハ蓋シ法律ノ勢力弱キニ趨キテ此類ノ亂暴滋多ク一般ノ恐懼ヲ廣メタル時ノ混亂變革ノ際ニ初マリシ者ナル

第三 不理ナル欲望ノ誘原ニ關シテ之ヲ論
 スルニ今若シ他人ノ權利ヲ干犯シ以テ某物
 ヲ獲ル所ノ快樂ヲ以テ此行事ヨリ生ズルノ
 痛苦ト比較スル時ハ其利害等シカラサルヲ
 證スベシ然レモ若シ唯第一類ノ效果ノミヲ
 觀察スル時ハ疑ヒモナク幸福多ク凶害寡キ
 者無キニアラス又罪科ノ觀察ヲ此度ニ止ム
 ルニ於テハ嚴肅ナル法律ニ至當ノ理解ヲ與
 フルヲ容易ナラス夫レ各事ハ皆第二類ノ凶

害ニ因テ定マル者トシテ上艾記載スル所ノ
 行事ニ罪科ノ性質ヲ與ヘ刑罰ヲ必要ナラシ
 ムル者ハ第二類ノ凶害ニヨレリ請フ飢餓ニ
 供セントスル躰欲ノ一例ヲ看ヨ、乞人飢餓ニ
 迫テ富家一塊ノ麵包ヲ竊取スルヲアラン、蓋
 シ之ヲ以テ其餓死ヲ免ル、ヲ得ン、此場合ニ
 於テ盜人ガ躬カラ得タル幸福ヲ以テ富人ガ
 受タル凶害ト相比對セシムルヲ得ル乎、此ク
 迄ニ明瞭ナラザル他ノ諸例ニ至テモ亦其理
 ヲ同クセリ一人アリ官金ヲ竊取センニ此人

ハ一身ヲ富贍ニシテ何人ヲモ貧困ニセズ其
 許多人ニ及べル損害ハ微細ノ分數ニ別レ
 テ減少セリ抑此等ノ行事ヲ以テ罪科トナス
 ヲ要スルハ第一類ノ凶害ニヨルニアラス第
 二類ノ凶害然ラシムル者ナリ
 嫉惡男女ノ慾及ビ飢餓ノ如キ強大ノ勢力ヲ
 有スル願欲ト雖氏之ヲ満足此満足他人ノ利
 益ニ反對スル時ハスルニ因テ起ル快樂スラ
 其生スル凶害ニ相均カラザル斯ノ若シ況ヤ
 其勢力ノ之レヨリ小弱ナル誘原至テ其

幸福凶害ノ相懸隔スル更ニ大ナル者アラシ
 トス
 以上所論ノ外唯一問題ヲ餘ス即チ是レ自家保
 存ノ願欲ニシテ今特ニ之ヲ論究スルヲ要ス
 此問題若シ法律ガ一箇人ニ向テ科セントスル
 所ノ或ル一凶害ニ關スレバ唯切要ナル理由ア
 ル為メニシテ其凶害ヲ科スルヲ得ベシ例ヘバ
 裁判廳ニ於テ宣告シタル刑罰ヲ實施スルヲ必
 要トスル如キ者ニシテ此刑罰ニシテ無ラシメ
 バ則安固無ル可ク又政府無ル可シ今若シ此類

ノ凶害ヲ免ルトノ願欲ヲ遂シメシカ則チ之ヲ
 遂シメタルト同ジ度ニ於テ法律ノ力ヲ弱メン
 トス是ニ於テ彼ノ願欲ヲ遂ルヨリ生ズルノ凶
 害ハ法律ノ微弱ヨリ起ルノ凶害タルヲ見ルナ
 リ恰モ同一ノ理由ニ因テ其法律ノ存セザルヨ
 リ生ズルノ凶害タルヲ見ルベシ然リ而シテ法
 律ノ存セザルヨリ起ルノ凶害ハ法律ヲ設立シ
 テ禁止セントスル種々ノ凶害ノ湊合セル者ナ
 リ之ヲ切言スレバ人々他人ノ上ニ就テ經驗ス
 ベキ諸凶害ナリ夫ノ一箇人ガ此ク法律ニ向テ

一回ノ捷ヲ獲タズハ以テ法律ノ全體ヲ撼揺ス
 ルニ足ラザルヤ真ナリ然リト雖此ノ如キ各
 例ハ法律卑弱ナルノ徴候ナリ其滅裂ノ方向ニ
 一步ヲ進ムルナリ且之レニ繼ギ第二類ノ凶害
 ヲ起シテ駭愕ヲ生ゼン假令駭愕ヲ生ゼズトモ
 亦危険ヲ生ゼン法律若シ此避脱ヲ容レテ之ヲ
 恕セバ則チ法律ノ本旨ニ背戾シテ之ヲ容スナ
 リ一凶害ヲ避シガ為メニ之レヨリ夔カニ大ナ
 ル他ノ凶害ヲ縦行セシムルナリ
 今此ニ附論ス可キ一ノ場合アリ法律科スルヲ

欲セザル凶害ニ逢フ人自ラ之ヲ捍禦セン
 トスル即チ是レナリ夫レ法律之ヲ人ニ科ス
 ルヲ欲セザル凶害ナレバ則チ人ノ之ヲ甘受
 スルハ法律ノ欲セザル所ナリ然ラバ則チ人自ラ
 此凶害ヲ捍禦スルハ是レ幸福ノ事タルヲ知ル
 然リト雖人此ノ凶害ヲ捍禦シテ其身ヲ保守
 スルニ方リ此幸福ヨリ大ナル凶害ヲ為スル無
 シトセズ(按)人我ヲ毆タシスルハ之ヲ防デ彼
 殺スガ如キハ保身ノ幸福ヨリ大ナル
 凶害ナリ其人自家保護ノ為メニ為シタル凶
 害ハ唯此目的ヲ遂ルニ必要ナル疆界ニ止マレ

乎抑其疆外ニ騁出スル乎其人為ス所ノ凶害ト
 其避タル所ノ凶害ト如何ナル比例ヲ為ス乎彼
 此相均キ乎抑大小アル乎其避ケタル凶害ハ彼
 レ若シ損益相抵ラザルノ方法ヲ用キテ之ヲ避
 ケズシテ暫時忍デ之ヲ受ルモ後ヨク償補スル
 ヲ得ベキ者タル乎此等ハ自家保護ノ條規ヲ分
 解スルニ先チテ法律ノ當ニ考察スベキ疑問ニ
 係レリ是レ犯罪ニ向テ其無罪若クハ減罪ノ手
 段ヲ論ズルノ部分ニ属スル刑法ノ一論題ナリ
 今此ニハ左ノ考察ヲ舉ルヲ以テ足レリトスベ

シ曰ク、一個人ガ自家保護ノ為メニ為ス所ノ諸
行ハ實ニ第一類ノ凶害アリト雖氏決シテ駭愕
ト危険トヲ生ゼザルナリ即チ世間ノ人已レ先
ヅ無法ノ攻撃ヲ為スニ非レバ決シテ惶ルベキ
一無レバナリ

第十二篇

道學ト立法學トヲ區別スルノ分界ヲ論

道學ハ汎ク之ヲ解スルニ為シ得ベキ至大ナル
幸福ヲ生ズル方向ニ人類ノ行事ヲ指揮スルノ

術ナリ異テ之ヲ解スルニ為シ得ベキ至大ナル

立法學モ亦恰モ之ト同一ノ目的ヲ有セザル可

ラザル者トスルモ亦恰モ之ト同一ノ目的ヲ有セザル可

然ルニ此二術ハ之ヲ術ト謂ヒヨリ寧ロ學ト稱

ス可キ者ナリ斯ク同一ノ目的ヲ有スト雖氏其

疆域ハ甚ダ相異ナレリ諸般ノ行事ハ其公ト私

トニ關セズ悉ク道學ノ域内ニ在リ道學ハ人ニ

向テ其一身ノ諸行ト其人間ノ交際トヲ指揮ス

ル者ナリ而シテ立法學ハ之ヲ為ス能ハズ假令

之ヲ能クセシムルモ立法學ハ理ニ於テ終始人

ノ行事ニ干涉シ之ヲ指畫スベキ者ニアラズ
道學ハ各人ニ向テ社會ヲ利益一身ノ利益モ此
中ニ含有スル諸事ヲ行フヲ命ズ然ルニ立
法學ニ於テハ其社會ヲ利益スルノ行事ト雖
之ヲ命ズ可ラザル者アリ又道學ノ禁ズル有害
ノ行事ニシテ立法學之ヲ禁ズルノ理無キ者モ
亦多シ一言以テ之ヲ論ゼン曰ク立法學ハ道學
ト同一ノ中心ヲ有スト雖氏同一ノ周圍ヲ有セ
ズ然レモ其中心ニ在リテ同一ノ目的ヲ有スル
此ハ差異アル所以ニ就テ二個ノ理アリ

格言可服膺

第一 立法學ハ刑罰ニ由テ人ノ行事ニ直接
ノ權力ヲ有スルノミニシテ其他ハ一切之ヲ
有スル能ハズ然ルニ其刑罰ト云フ者ハ許多
ノ凶害ニシテ之レヨリ大ナル幸福ヲ生ズル
者ニアラザレバ之ヲ正視スルヲ得ズ而シテ
刑罰ニ由テ道學訓誡ノ力ヲ増ント企テタル
諸般ノ場合ニ於テ刑罰ノ凶害ハ却テ罪科ノ
凶害ヨリ夙カニ大ナルベク其法律ヲ實行セ
シメン為メニ要スル所ノ手段ハ之ヲ以テ禁
止セント欲スル凶害ヨリ更ニ惡ムベキ駭愕

社会ニ波及ス可キ性質ノ者ナルベシ
 第二 立法學ハ罪人ヲ罰セント欲シ之レガ
 為メニ無罪ノ人ヲ累ハスノ危険ニ由テ往々
 其運行ヲ止メラル、ナリ夫レ此ノ危険ハ何
 ニ由テ生ズル乎、曰ク罪科ヲ定メ其明瞭恰當
 ノ意義ヲ與フルノ至難ニ由テ起ル例ハ危險
 心、忘恩、背信、等ノ如キ不徳ハ世論ノ効權之ヲ
 罰スト雖モ其賊盜殺人偽誓ノ確稱ニ中ルニ
 非ルヨリハ之ヲ法律ノ權内ニ入ル、能ハザ
 ルカ如シ

然リト雖モ道學ト立法學トノ真個ノ疆域ヲ更
 ニ分明ニ區別レシガ為メハ、道學義務ノ普通
 ナル類別ヲ取用スルヲ便サントス
 私行ニ關スル道學ハ人ノ行事ヲ規飭スル者ニ
 シテ其行事ハ此人一身ノ利害ニ關スルト他人
 ノ利害ニ與カル者トヲ兼々而シテ其一身ノ利
 害ニ關スルノ行事ハ所謂自己ニ對スルノ義務
 益シ不當ナル名稱我義務トハ他ニ應ズルノ職
分ニシテ世慎獨ノ義ニ用キ
ルハ此意ニ違ヘリ故ナル者トス而シテ此等ノ
ニ不當ナル名稱トス義務ヲ遂行スルニ於テ現スル所ノ性質ヲ稱シ

テ謹戒ト為ス、又他人ノ利害ニ與カルノ行事ハ
 所謂他人ニ對スル義務ナル者ナリ、而シテ他人
 ノ幸福ヲ計ルニ二道アリ、其一ヲ不為ハ義務ト
 ス、即チ他ノ幸福ヲ減損スルノ行事ヲ為サザル
 ナリ、其二ヲ實為ハ義務トス、即チ他ノ幸福ヲ增
 加スル行事ヲ勉ムルナリ、不為ノ義務ハ狷操ヲ
 成シ實為ノ義務ハ慈惠ヲ成ス
 道學ハ此三箇ノ点ニ於テ法律ノ助力ヲ要ス、然
 リト雖モ其度同ヅカラズ、方法モ亦異ナリ
 第一 謹戒ノ條規ハ大抵常ニ其條規ノミ

シテ足レザリ、人若シ其一身ノ利ヲ計テ敗ヲ取
 ルハ其過チ志ニ在ラズ、識ニ在リ、其錯誤ヲ為
 スハ唯其失計ニ因テ之ヲ為ス、利得ルノミ、自
 家ヲ損ズルノ畏懼ハ十分強盛ナル禁遏ノ誘
 原ナリ、更ニ人為痛苦ノ畏懼ヲ之レニ附加ス
 ルハ無用ニ属ス可キノミ
 然ルニ實際ノ事ハ之レニ反對スト、抗言スル
 者アル乎、夫ノ最大危険ノ往々跟随スル逸遊
 醉飽ノ過度、男女ノ野合ヲ引テ、人ハ自己ヲ損
 ス可キ行事ヲ為サザル程ノ謹戒ヲ有セザル

ヲ證スルニ足ルト抗言スル者アル乎
今一般ノ答辯ヲ為スヲ任トシテ第一ニ此等
ノ場合ニ於テハ大抵刑罰ノ無効ナル迄ニ其
刑罰ヲ免ル、甚ダ容易ナルヲ辨シ、第二ニ
刑法ニ由テ生スルノ凶害ハ此罪科ノ凶害ニ
曼カニ超過スルヲ陳ントスルナリ
例ヘバ直接ノ法律ニ由テ過飲ト野合トヲ絶
跡スルヲ企ルノ權アリト自ラ信スルノ立法
者アランニ、此立法者ハ先ヅ法網ヲ繁密ニス
ルヲ以テ其着手トナス可シ、故ニ其第一ノ不

便利ハ法律ノ混雜ナルニアリ、且人ノ此等ノ
不徳ヲ隱匿スルノ容易ナルヲ以テ之ニ刑罰
ノ實例ヲ示シテ其心ヲ震慄セシメ之ニ因テ
他ノ常ニ免刑ヲ冀望スルノ念ヲ絶シメンガ
為メニ苛醜ノ刑罰ニ依頼セザルヲ得ザルニ
至ラン、夫レ法律ノ苛醜ニ過グルハ第二ノ不
便利ニシテ其度第一ノ不便利ト伯仲ス、又犯
罪ノ證ヲ得ルノ難キヲ以テ其告發者ヲ勸奨
シ細作ノ羣ヲ置カザルヲ得ザルニ至ラン、此
レ第三ノ不便利ニシテ第一第二ノ不便利ニ

此スレバ更ニ大ナリ請フ其幸福ト凶害トノ
結果ヲ比較セヨ此類ノ犯罪ハ假設不謹戒ノ
行為ニ犯罪ノ名称ヲ附與セシメバ決シテ駭
愕ヲ生ゼズ然ルニ其偽冒ノ矯正按之ヲ刑ス
正ニアラズ故ハ震駭ヲ全國ニ波及セントス
無罪若クハ有罪ノ各人皆其身ノ為メニ恐レ
或ハ係累ノ為メニ恐レン疑懼ト告罪トハ社
會ヲ危険ノ中ニ陥ラシメン吾人ハ此ノ如キ
社會ヲ逃去セザルヲ得ズ吾人ハ自ラ隱秘藏
匿ヲ頼マザルヲ得ズテ信用ヲ發現スルヲ

ヲ避ケザル可ラズ是レ一凶害ヲ防遏セシト
スルガ為メニ他ノ大危険ナル新起ノ凶害ヲ
生ズルニ至ラシトス然レハ其
夫レ不良ナル例其過度ナルニ至テハ他人ニ
浸染シ又其唯僅々數人ニ波及スル間ハ大害
ヲ見ズト雖モ其廣布スルニ至テハ重大ノ事
トナラバシト其言マ真ナリ此種類ノ犯罪ニ
關シテ立法者ノ為スヲ得ル所ハ唯其甚キ醜
狀ヲ現ズルノ場合ニ於テ或ル輕刑ヲ之レニ
科ス可キノミ此事マ其レヲ不法トスルノ汚

辱ヲ其行事ニ與フルニ足ルヘク、此汚辱ハ世
論ノ効權ヲ此行事ニ向テ勵マス可キナリ
古來ノ立法者其過度ノ關涉ヲ為シテ人民ヲ
抑制シタルハ此ノ類ノ罪犯ニ屬セリ、此等ノ
立法者ハ人民ノ行事ヲ其各自ノ謹戒ニ委セ
スシテ之ヲ御スル兒子ノ如ク、奴隸ノ如ク、恰
モ夫ノ宗教各派ノ開祖ガ己ノ權勢ヲ炳耀
セント欲スルト、襟度ノ狹陋ナルトニヨリ其
信徒ヲ最モ下劣ナル從屬トナシ、時々刻々間
斷ナク之レガ職業、飲食、起卧ヨリ一切生活ノ

小計ヲ指畫シタルハ一般ノ情想ニ落チタリ、
現ニ有名ノ法典アリテ其中多ク此種ノ障
礙ヲ見ル、婚姻ニ無用ノ制限アリ、獨居ヲ禁ズ、
刑罰アリ、衣服ノ制度、祭饗ノ費用、家内
什具、婦人ノ裝飾ヲ一定スル、節儉法アリ、許ス
所ノ禁ズル所トシ、食品ニ關シ、某々ノ清淨禮
式ニ關シ、健康ト清潔ニ要スル灑掃ニ關シ、並
ニ無數ノ小則アリ、其他同様ナル千百兒戲ノ
法アリテ無用ナル制限ノ諸不便ヲ生シ、又神
明不測ノ外貌ヲ假テ此謬妄ヲ蔽ヒ其糊塗ヲ

粧シガ為メニ人民ヲ愚蒙ニスルノ不利ヲ與ヘタリ
刑法ヲ以テ宗教ノ諸説ヲ齊一ニセント企テタル諸國ニ至テハ不幸更ニ大ナル者アリ夫レ人民ノ宗教ハ全ク其各個ノ謹戒ニ一任シテ撰マシムルヲ當然トス若シ人民ヲシテ天堂ノ幸福ハ礼拝ノ或ハ式様若クハ信向ニ屬スト信ゼシメシカ立法者ハ何ヲ以テ斯ク重大ナル利益ニ反對スルヲ能スル乎此真理ハ合之ヲ主張スルヲ要セス世人既ニ普ク知ル

所ナリト雖能立法學ノ疆域ヲ畫スルニ方リテ不論ニ措サルヲ以テ緊要トスルノ論題ヲ擱置スル能ハサルナリ和ハ出入ハ利害ヲ夫レ人自ラ損スル外毫モ他人ヲ害スル能ハサルノ場合ニ於テハ皆其最大ノ領分ヲ各人ニ附與シテ之ニ關涉ス可ラス是レ一般ノ通則ナリ如何ントナレバ各人其自家ノ利害ノ最良判司ナレバナリ若シ各人自ラ錯ルモ其過失ヲ覺ル時ハ直チニ其行事ヲ更メント看做スベキナリ法律ノ威權ハ唯人々互ニ相妨

害スルヲ制スルニ當テ之レニ關涉ス可シ抑
制ヲ必要トスルハ此ニアリ真確必需ナル刑
罰ノ用ハ此ニアリ何ントナレバ此場合ニ於
テ一人ニ被ラシメタル嚴科ノ為メニ一般ノ
人ヲ安固ナラシムルヲ以テナリ
第二 夫レ謹戒ト正行トノ間自然ノ聯絡アリ
ト此言實ニ然リトス如何ントナレバ吾人
自家ノ利害ヲ真覺スル時ハ他人ヲ損害セサ
ル可シト謂フノ誘原ナクシバアラス請フ少
間此点ヲ考論セン夫レ宗教ト法律トヲ離レ

吾人ハ日常或ハ自然ノ誘原アリ之ヲ切言
スルハ自家ノ利害ヨリ起リテ他人ノ幸福ヲ
計ントスルノ誘原アリトス

第一ヲ純粹ナル仁慈ノ誘原トナス此誘原
ハ吾人之ヲ經驗スルトヲ樂ム所ノ甘快穩
静ノ感情ナリ又苦惱ノ事ヲ疾視セシムル
者ナリ

第二ヲ私愛ノ誘原トナス家内ト親明トノ
特別ナル壇内ニ勢力ヲ現スル者ナリ
第三ヲ美名ノ願欲ト非難ノ畏懼トナス是

貿易ノ計算ニ類セリ、其負債ヲ償還スル
 ハ信憑ヲ有センガ為メナリ、真言ヲ話スル
 ハ信用ヲ獲ンカ為メナリ、人ノ為メニ勤ル
 ハ人ニ勤メラレンカ為メナリ、故ニ吾人ハ
 左ノ諧語ヲ理解セザル可ラス曰若シ正直
 ナル事ヲシテ絶無ノ者タラシモハ正直ヲ
 創製スルハ財産ヲ營求スルハ良計ナルベ
イニケントシト
 自家ノ利ヲ計ルニ明ナルノ人ハ羞ツ可キ慣
 習ヲ漸致スルノ畏ヲ抱テ秘密ノ罪犯ヲ縱行

セス、此密犯ハ早晚必ス發露ス可キ者ナリ、而
 シテ世間ノ人情ハ密事ヲ探索スルヲ好ムニ
 ヨリ百方之ヲ逃レントシテ中心常ニ不安ノ
 汚穢ヲ抱キ之レガ為メ一切ノ快樂ヲ壞敗
 ス夫レ安固ヲ失ヒテ獲ル所有一切ノ事ハ決
 シテ其損失ヲ償フニ足ラス、又人若シ美名ヲ
 希ハ、其美名ノ最上ナル保証タル可キ者ハ
 自ラ重マルニ如クハ無キナリ
 然リト雖、人若シ他人ノ利害ト自家ノ利害
 トノ間ニ此聯絡アルトヲ知ラントセバ、開明

ノ精神ト誘惑ヲ離レタル心胸ト有セシ
 ヲ要ス世人ハ大抵法律ノ助ケヲ俟クモシテ
 自家ノ正直ヲ其上ニ出デシム可キ程心性ノ
 智慧ト勢カト有セズ又此ノ如ク十分ナル
 道義ノ感情ヲ有セズ故ニ立法者ハ更ニ牢確
 ニシテ解悟シ易キ人爲ノ利害ヲ之レニ加ヘ
 テ自然ノ利害ノ脆弱ヲ扶ケサル可ラス
 豈啻是レノミナランヤ多クノ場合ニ於テ法
 律ノ爲メニ道義ノ存スル者アリ即チ道義ニ
 照シテ行事ノ善惡ヲ判スルハ法律ノ許スト

禁スル下知就守知要スル是ナリ
 夫ノ財産ニ關スル者ニ於テ然リトス賣財若
 クハ獲財ノ或ル手段甲國ニ於テハ之ヲ不正
 ト爲スモ乙國ニ於テハ非難ス可キ者ニアラ
 ガルアリ政府ニ對スルハ犯罪ニ至テモ亦其
 例ヲ同一ニス夫レ政府ハ唯法律ニ因テ立テ
 リ而シテ立法者ノ布告スル法律ヲ知ルニ先
 タチ政府ニ對スルノ行為ニ關シテ道義ノ責
 アリト謂フハ決シテ得ヤカラサル所ナリ現
 ニ或ル諸國ニ在テハ外國ノ軍役ニ入ルヲ以

テ犯罪トシ他ノ諸國ニ在テハ之ヲ合法ノ者
 ニシテ名譽ノ事トスルナリ(原註)此一段ニ於
 然トシテ實利ノ主義ニ背クモ吾人ハ當ニ之
 ヲ遵奉スベキ乎抑之ヲ犯ス可キ乎或ハ凶
 害ヲ勸ハル所ノ法律ト之ヲ禁ズル所ノ道義
 ト中間ニ依違ス可キ乎此問題ハ法律ヲ遵
 謹戒ト仁慈ト考察ヲ要ス吾人ハ法律ヲ遵
 奉スルヨリ法律ヲ干犯スルハ更ニ危険ナリ
 ヤ否ヲ察ス可クシテ之ヲ遵奉スルヨリ生
 可シト想像スル凶害ト孰レカ多ク孰レ
 生ズベシト想像スル凶害ト孰レカ多ク孰
 カ寡キ乎ヲ察ス可クシテ之ヲ遵奉スルヨリ
 ス可キナリ

第三 慈惠ハ之ヲ區別スルヲ要ス法律ヲ以
 テ之ヲ一般ノ目的ニ擴充スルヲ得ル貧民

賑濟ノ如キ者アリト雖モ其細目ニ至テハ之
 ヲ私行ノ道義ニ屬スルヲ要ス慈惠ハ其隱秘
 ノ性質ヲ有シテ法律ノ達スル能ハザル如キ
 目視ル可ラザル隱伏ノ凶害ニ對シテ其効力
 ヲ現サシムルヲ好メリ且仁慈ガ其威カヲ有ス
 ルハ各自ノ自由ナル志向ニ依レリ若シ同一
 ノ行事ヲシテ法律ノ指揮ニ出シマハ是レ既
 ニ慈行ニアラスシテ其誘導ノカト緊要ノ性
 トヲ失フ可シ夫ノ立法學ニ必要ノ裨補ヲ成
 シ而シテ仁慈ノ至美ナル聯絡ヲ致ス者ハ則

ナ道學ノ力ニシテ殊ニ宗教ヲ然リトス
然リト雖モ古來ノ立法者ハ此点ニ就テ過度
ノ力ヲ用キザルノミナラズ却テ未ダ十分方
畧ヲ致サミルナリ夫レ立法者ハ仁慈ノ行事
ニシテ之ヲ為スハ易ク又之ヲ為ザレバ分
明ナル凶害ヲ生ゼニト必然ナルニ厭テ行ハ
ズ怠テ為サミル者ニ於テハ之ヲ罪科ト為ス
可キナリ例ヘバ被傷人ヲ荒涼ノ地ニ棄テ
其人ノ為メニ幫助セニトヲ要メズ又毒物ニ
近キテ知ラサル人ヲ見テ告知ヲ為サズ或ハ

溝中ニ陥テ自ラ脱出スル能ハザル人ニ援手
ヲ與ヘザル如キ類ニ於テハ此無情人ニ或ル
度ノ耻辱ヲ科シ若クハ防遏タラシニハ防
遏ヲ得ベキ凶害ノ責ヲ以テ之ヲ為シ肯シガ
リシ人ニ任テ罰金ヲ負シメテ之ヲ刑スルモ
豈之ヲ過テリト謂シ乎
加旃立法學ハ之ヲ擴メ禽獸ニ關シテ現時ノ
法律ヨリ更ニ遠キニ及ボスヲ得ベシ斯ク言
フモ此事ニ就テ印度人民ノ法律ヲ賞賛スル
ニアラズ夫ノ禽獸ニ於ケル用テ人ノ食ニ供

シ且ツ其吾人ヲ妨害スル者ハ之ヲ殺ス並ニ
 至當ノ理アリ吾人ハ之ガ為メニ利ヲ享ケ禽
 獸ハ之レニ當ルノ害ヲ受ケズ何ントナレバ
 禽獸ハ人ノ如ク將來ニ向テ遠ク且慘マシキ
 先見ヲ有セズ人ノ手ニ死スルハ天然ノ死ヲ
 得ルヨリ苦難却テ寡シトス然リト雖ヒ慘刺
 ノ戲ヲ為シ禽獸ヲシテ無用ノ痛苦ヲ受ケシ
 ムルハ何ノ説アリテカ之ヲ是ト云フヲ得ン
 ヤ夫レ禽獸ニ無益ノ慘刺ヲ加フルヲ以テ罪
 科トスルニ就テ其理多シト雖ヒ今唯我法律

論ニ適スル者ノミヲ陳ベテ更ニ其餘ニ言及
 セズ即チ其事能ク仁慈ノ一般ノ感情ヲ通暢
 シ人ヲシテ更ニ溫柔ナラシムルノ手段ナリ
 假令然ラザルモ禽獸ヲ虐待スルノ後繼デ此
 心ヲ移シテ更ニ人類ノ痛苦ニ及バントスル
 暴戾ヲ豫防スルノ手段ナリ原注荷蘭ノ殖民
氏ノ喜望峯記行ハバルロ

